

保育ホーム ～新しい幼老複合施設の検討～

日本では少子高齢化が着々と進んでいます。平成 26 年 10 月 1 日現在では高齢者人口は 3,300 万人と、日本の総人口 1 億 2,708 万人の 26%を占めています。高齢者社会の現状を悲観せず、日本に活気をもたらしていくためには高齢者を元気にすることが一番重要と思われ、子供と交流を持つことで高齢者に元気をもたらす『幼老複合施設』に注目しました。幼老複合施設とは、保育園や児童館、小学校などの子ども用の施設と、老人ホームやデイサービスセンターなどの高齢者施設の合築・併設された複合施設のことを指します。

1. コンセプト

(1) おじいちゃんおばあちゃんを元気にしたい

介護施設を利用すると、どうしても老いや孤独感を感じ表情も乏しくなっていくと思います。このような環境が続くと今まで以上に老いも進みやすくなることから、子供との交流を通じて高齢者を元気にする施設をつくりたいと思いました。



(2) 子供たちに日本の歴史・文化を知ってもらいたい

最近では少なくなった三世同居。そのため今の子供たちは祖父母といった高齢者との交流の場が少なくなりました。しかし戦争などの話を実際に体験者から聞いたり、昔ながらの礼儀作法や遊びを教してもらったりと、日本の歴史・文化を直接伝えていくことは子供にとって重要であると考えます。



(3) 保育士・介護士さんの負担を少しでも軽減したい

数年前から保育士・介護士の人手不足が問題になっています。原因としては、心身の負担の大きさや負担に対して賃金が割に合わないことによる離職者が絶えないことが考えられます。厚生労働省職業安定局が実施した「保育士資格を有しながら保育士としての就職を希望しない求職者に対する意識調査(2013)」によると、『賃金が希望と合わない』と答えた方が 47.5%を占めていました。今後、更なる離職者の増加により人手不足に陥った現役の保育士・介護士の一人当たりの負担は増えていくことが想定されます。



2. 現状・課題

幼老複合施設の事例として、2000 年 4 月に開設された神奈川県にある『たけのうち保育園・東淵野辺デイサービスセンター』があります。建物は 1 階でつながる構造で、子供の

事故防止のため境界部に鍵のついた扉が設けられています。交流としては、顔と名前を覚えられるように年長の園児が 5~6 人の少人数単位でデイサービスセンターを訪れます。普段は表情の乏しい高齢者が子供たちの前では自然と笑顔になり、子供たちとのふれあいがデイサービスセンターへ行く動機づけとなり継続的な利用につながった方もいるそうです。高齢者と子供たちの総合的に日常的な交流が地域にも大変評判のようです。

このような幼老複合施設は増加傾向にあります。下記に示す課題により、十分な普及には至っておりません。(2000年10月時点で介護施設を併設する保育園は全国に564カ所/厚生労働省の社会福祉施設等調査より)

- ① 子供が苦手な高齢者への配慮が必要
- ② 介護施設に対して閉鎖的なイメージ(保護者や地域住民の介護施設に対する理解不足)
- ③ 保育士・介護士の人手不足

幼老複合施設が普及することで、介護施設への入居待ちや待機児童の問題を解消できると考えています。

3. アイデアの提案

以上の課題より地域展開が可能となる新しい形の幼老複合施設として『保育ホーム』を提案します。保育ホームとは保育園と民間運営の有料老人ホームを併設する施設を対象とします。民間運営の有料老人ホームは比較的自立した生活を送れる高齢者が利用されるため、子供たちとの交流が可能だと考えます。そして最近働く女性が増加傾向であるため、幼稚園より預かり時間の長い保育園への入園を希望する保護者に配慮しました。

- ① 建物の構造は子供が苦手な高齢者、静かに過ごしたい方への配慮として介護施設と保育園の建物は別々とし、高齢者と子供たちが交流する場を設けて通路でつなぐ構造にします。子供たちが勝手な行き来を出来ないように、通路には扉を設けます。
- ② 介護施設のイメージ改善を図る目的として、交流の場はオープンな構造にします。この交流の場を見てもらうために周辺におしゃれなカフェを誘致するのも良いかもしれません。ランチを食べに来た方たちが交流の場を見て少しでも話題になればと思います。高齢者と子供たちが楽しそうに交流している場面を見てもらうことによって、介護施設のイメージを変えたいと思っています。施設では、地域ぐるみで夏祭りやクリスマスなどのイベントを月に一度実施することで、高齢者と子供たちの交流だけでなく、地域交流にもつながるのではと思います。イベントの中には戦争の実体験の芝居をつかって読み聞かせや昔の日本の遊びなど、子供たちに日本の歴史や文化を伝えるようなものも用意します。



イメージ図

- ③ 保育士・介護士の給与の見直しを行います。両者の平均年収は **300** 万円であり、賃金が割に合わない退職される方が後を絶たないからです。具体的には近くに誘致したカフェの売り上げのいくつかを給与にあてたいと考えています。建物の併設など施設の経費削減を実施し余った部分を人件費にあてます。それでも賄えない場合は国と都道府県に保育園の補助金の見直しを求めます。保育料の見直しは待機児童を増やす原因になりかねないので考えていません。また **Facebook** や **Twitter** などの **SNS** を活用して交流の場の写真をアップしたいと考えます。**SNS** は最も手軽な宣伝方法です。情報伝達が早いことも利点であります。高齢者や子供を持つ親御さんへの **PR** はもちろんのこと、資格は持っているが介護・保育の職には就いていない方や子育てなどの理由で退職された方へ、楽しく活動できる職場であることを伝えて再就職のよびかけにつながればと思います。そのほかにも人材不足のため介護福祉士と保育士の資格の統一化が進んでいます。統一することにより幼老複合施設において職員が臨機応変な対応をとることができる、人員を縮小することができる、少子化が進み保育の職を万が一失っても介護の職に就けるといった職を失うことがないなどのメリットが挙げられます。統一化が決まれば、保育ホームで人材を雇うと、普段は介護の方にまわっているかたが少ない場合、保育の方にまわっているかたが応援にいけるといった臨機応変な対応がとれ、休暇取得しやすい職場に出来ます。

4. おわりに

幼老複合施設がかかえている課題の解決方法を考えるのがとても難しかったです。劇的に解決できるような方法は思い浮かびませんでした。少なからず言えることは、幼老複合施設には多くのメリットを持っているということです。高齢者は子供たちに元気づけられ、子供たちは高齢者に多くのことを学びます。保育ホームのような施設が実現すれば保育士・介護士の負担軽減も期待できます。このため、これはもっと各地に普及されるべき施設だと考えています。そして施設周辺の地域全体に良い刺激を与えて地域活性化につながることを願います。